

JAMの主張

郡山LINE もう登録した？

組合員の行動へ「声がけ」こそが確実な道筋

【機関紙JAM・2025年4月25日発行 第315号】

JAMの郡山りょうの戦いが、いよいよヤマ場を迎えようとしている。

2023年5月の擁立決定以来、候補予定者本人はもちろんのこと、われわれが全国で積み上げてきた活動を礎に、取り組みを一挙に大爆発させるタイミングが日々刻々と近づいている。われわれは、この取り組みで目標を必ず突破しなければならない。

仲間の代弁者としてタスキをかける候補者の氏名を、一枚の投票用紙に記入する。この極めてシンプルな行動に、全国30万を超すJAM傘下の仲間が一斉に取り組む。

もっとも簡単で、最も難しい取り組みだ。シンプルな取り組みといえども、これを成し遂げることは簡単なことではない。

さらに、この取り組みには秘策はない。仲間の行動を呼び起こすためには、しっかりと声をかけ、取り組みの主旨・内容を伝えることが不可欠だ。確実に声をかけて行動を促すこと。これしかない。

組織を取り巻く環境、組合員一人ひとりの意識、社会の中での政治の位置づけが大きく変わっている中であっても、「声がけ」こそが、組合員の行動に結びつけるための確実な道筋だ。

今回の取り組みでは、これまでのカード、訪問、電話といった手法に代わる「声がけ」ツールとして、郡山りょう公式LINEへの登録呼びかけを展開している。取り組んでみるとなかなか難しく、苦戦している組織リーダーも多いという。

集会での説明、印刷物の配布などに加えて、こちらでも個別の「声がけ」が最大の効果を発揮する。LINE登録の呼びかけは、すなわち「郡山りょう」の声がけであり、登録の先には、匿名性などが担保された中で、「郡山りょう」からダイレクトに声もかけていくことになる。

さあ！ 今日から、職場の仲間に向けて、ひとりずつ、ていねいに声をかけていこう！
「郡山りょうのLINE、もう登録した？」と。

副書記長 椎木 盛夫